（9−③） 校内研究授業「国語科：たずねびと」

5年4組　飯田学級　　10月12日（火）　3校時

時間	1	2	3	4	5	6	7	8（本時）	9
	物語の全体像の把握　（初）		綾とポスターとの出会い（中１）		広島で訪れた場所と綾の心情の変化（中２）				まとめ（終）
ねらい	物語に入り込めるように、全体像と場のイメージをもたせる。		文章を深く読み取り、表現の工夫を認識する。	比喩と行った文章の表現から、心情を表す表現を見つける。	情景描写の効果に気が付く。	文章の言葉から、心情を表す表現を認識する。	文章の表現の工夫を見つけ、文章を読み取ることで心情を考える。	文章を深く読み取ることで、文章の表現の工夫に気が付き、心情を読み取る。	読み取ってきた内容を整理して、自分の考えを表現する。
課題	物語の全体像をつかもう。	綾が訪れた場所を具体的に知り、広島の町並みをイメージしよう。	不思議なポスターは何が不思議か理解しよう。	綾のポスターへの関心の変化を読み取ろう。	平和記念資料館での綾の心情を読み取ろう。	追悼平和記念館での綾の心情を読み取ろう。	原爆供養塔で出会ったおばあさんと話をしてからの綾の心情を読み取ろう。	らんかんにもたれた綾の心情を読み取ろう。	なぜ主題が「たずねびと」なのか考えよう。
0 学習の流れ 45	オリエンテーション ・学習の見通し ・学習のめあて 学習プリント配布・使い方説明 く 初発の感想共有	綾が見たものいった場所を順番に調べる ふりかえり ・思ったこと ・感じたこと ・わかったこと	課題発見型ジョイント学習の設 復習と課題の確認、グループでの話し合い（10分） ①前回の学習のポイント ②前回の学習で学んだこと・感じたこと 話し合い（25分） ふりかえり（5分） 共有（5分）	話し合い（25分） ふりかえり（5分） 共有（5分）	話し合い（25分） ふりかえり（5分） 共有（5分）	話し合い（25分） ふりかえり（5分） 共有（5分）	話し合い（25分） ふりかえり（5分） 共有（5分）	話し合い（25分） ふりかえり（5分） 共有（5分）	段落ごとにタイトルをつける 発表 感想
家庭学習		ジョイント学習 予習プリント		ジョイント学習 予習プリント	ジョイント学習 本文の読み取り		ジョイント学習 予習プリント	ジョイント学習 予習プリント	
知技				②③	②③	②③			
思判表	⑥⑦	⑥⑦	⑤⑥⑦				⑤⑥⑦	⑤⑥⑦	⑤⑥⑦
学・人	⑧	⑧	⑧⑨	⑧	⑧⑨	⑧	⑧	⑧⑨	⑧

【知識・技能】
①話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。
②思考にかかわる語句の量を増やしすこと。
③比喩や反復、情景描写などの表現の工夫に気付くこと。
④文章を音読したり、朗読したりすること。

【思考力・判断力・表現力】
⑤人物や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
⑥文章を読んだ意見や感想を共有し、自分の考えを広げたりすること。
⑦文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

【学びに向かう力・人間性】
⑧ジョイント学習に進んで取り組み、授業の準備が整っていること。
⑨学習に対して前向きに取り組み、進んで学習を深めようとすること

(9-③)授業研究会より　「国語科:たずねびと」　5年4組　飯田輝

校内研、（体育以外の授業編）では、

①昨年度取り組んだ《ジョイント学習》における成果と課題から、その学習スタイルをさらに追求することで、子どものコミュニケーション力を培うことができないか。
②昨年度本校におられなかった先生達にも、《ジョイント学習》を継承していく。

研究会、研推でもお示ししていますが、上記２点から、今年度も学年部で研究授業を進めています。10月12日（火）、その口火をきって、５年生飯田先生が、国語科「たずねびと」で授業を公開してくださいました。

《研究の視点（ジョイント学習の効果）で授業を見る》

『主体的・対話的な学習活動を通して、共に高め合い夢中になっていく体育科学習
～学びをつなぎ、子どもをつなぐ単元デザイン～』

本単元における飯田先生のジョイント学習への取り組みは、以下三点です。

①家庭学習による事前の授業準備、思考活動②授業前半 10分間のグループでの話合い
③子どもからの意見を次の課題に（タイを釣る）

I先生が質問してくださった、前時でのJの問いは？にもあるように、子どもたちの思考にそって、家庭学習の課題を考える。または、こちらが意図する課題を、子どもたちが自分達で考えたかのように授業を運ぶ。デザインする。この視点は非常に重要で、ジョイント学習の核をなす部分です。そこへの的確なご質問、さすが昨年度「海のいのち」でジョイント学習の研究授業されたI先生でした。そんなI先生からは、最後に、本時における子どもたちの振り返りの時間が必要という意見もありました。子どもたちは、自分が考えてきたこと、授業中に考えたことが、周りの子どもたちの意見を聞くことで、一緒に考えたことでどうなったのか？変わったのか？変わらなかったのか？新たな考えが生まれたのか？自分で振り返り、整理する時間を持つことで学びが定着する。ジョイント学習には、そのような効果もあるというジョイントによって子ども同士を繋ぐ、核となる意見でした。

（9-④） 4年生校内研究授業「体育科：目指せ！！ビッグローラー！！」

4年4組　新野学級：授業者小堀　　10月27日（水）5校時

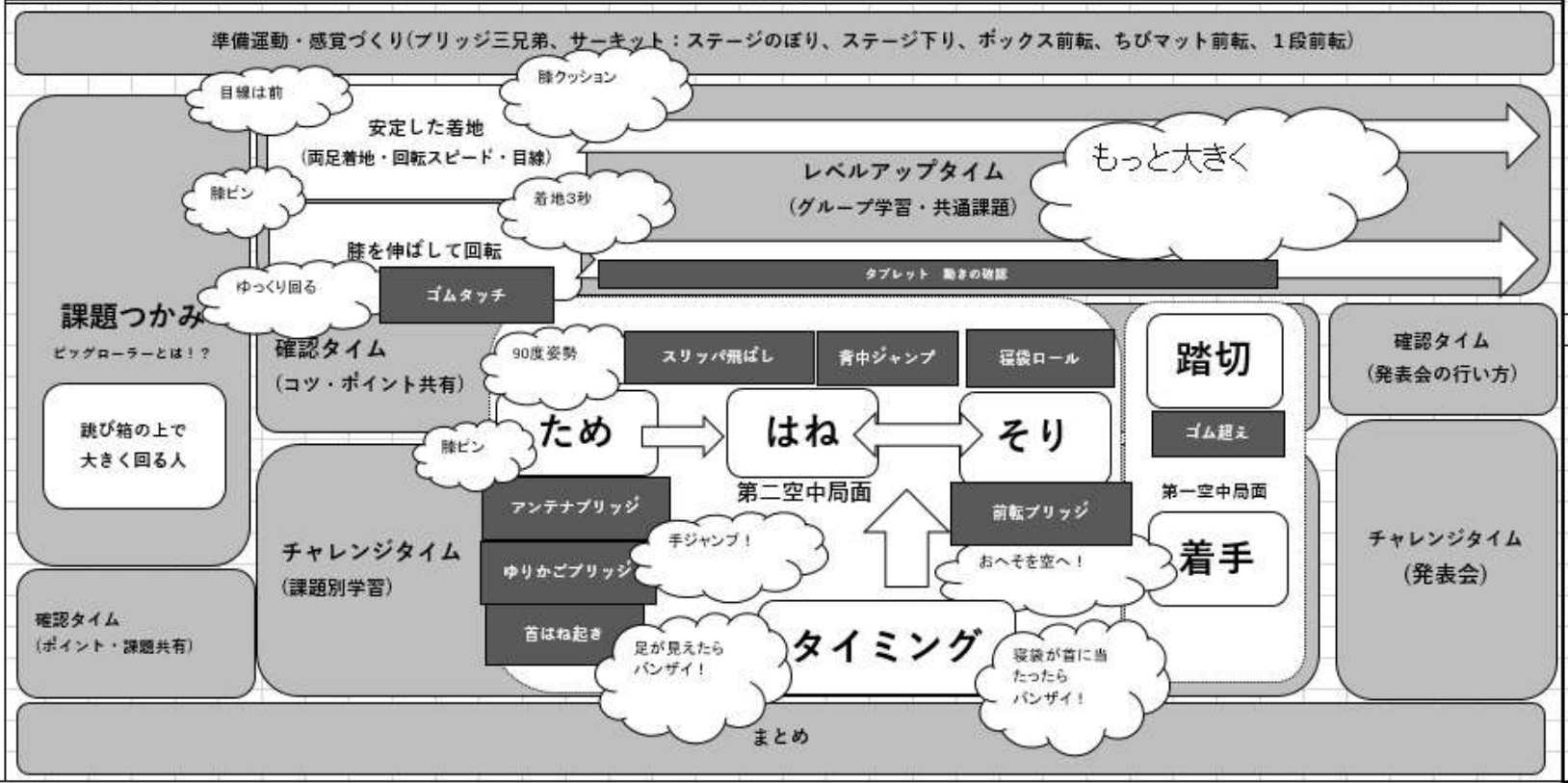
第４学年　器械運動 領域　単元名「目指せ！！ビッグローラー！！」

単元目標

○ 跳び箱運動の行い方を知るとともに、伸膝台上前転や首はね跳びができるようになる。	【知識及び技能】
○ 動きのポイントと自分や仲間の動きを照らし合わせて、課題や伸びを見つけたり、考えたりしたことを他者に伝えることができるようにする。	【思考力・判断力・表現力等】
○ 跳び箱運動に積極的に取り組み、きまりを守り、助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安に気を配ったりすることができるようにする。	【学びに向かう力・人間性等】

「主体的・対話的で深い学び」の視点で捉えた単元イメージ

時間	1	2	3	4	5	6
学習課題	伸膝台上前転や首はね跳びに必要な動きを探ろう	膝を伸ばし回転し、安定した着地をしよう	首はね跳びに必要な動きを高めよう			自分の出来栄えを発表し、仲間を見て学ぼう
	第１次	第２次				第３次



評価規準	
知識・技能	①跳び箱運動について見たり、書いたりすることができる。 ②円滑で安定した着地をすることができる。 ③膝を伸ばして台上で回転することができる。 ④そりの動きが台上でできる。 ⑤はねの動きが台上でできる。
思考・判断・表現	①首はね、伸膝前転、そり、はねなど自己の能力に適した課題を見つけている。 ②首はね、伸膝前転、そり、はねなどの課題に応じて、解決のための運動を選んでいる。 ③自分や仲間の良いところや変化から見つけたことや考えたことを仲間に伝えたり、書いたりしている。

まとめ				
	首はね跳びの動きのイメージを持ち、最元を通してビッグローラーを目指していくことが分かる。	膝を伸ばし回転し、安定した着地が大切であることが分かり、行うことができる。	「そり」、「はね」、「ため」がビックローラーに大切であることが分かり、行うことができる。	自分や仲間の良いところや変化を伝えたり、書いたりできる。

(9-④)授業研究会より「体育科:器械運動」　4年4組　新野学級　授業者:小堀文雄

《研究会　16時10分～：お話の部屋》

小堀Ｔは子どもの発言や、それまでの子ども達が試技している様子を改めて思い返し、ミルフィーユを授業に取り入れたことによる成果と課題を研究会のみんなで考えました。

ミルフィーユを取り入れた意図は、跳び箱から跳ねて降りる局面での動きが、柔らかいマットなら怖さなくできるのではないかという狙いでした。

Ｙ先生からは、この場が、首はねで降りることを目的とせず、ブリッジの状態でとめる練習を行う場にしておけば、違った様子になったかもしれないという意見でした。

準備運動でのブリッジがまだ十分に出来ていない子どもたちにとっては、ミルフィーユでブリッジの練習を行うことは、ビッグローラーに非常に有効に働く練習の場の一つであると研究会のみんなが納得しました。

また、ブリッジが出来たか出来なかったかという視点でミルフィーユを使えば、子ども同士がお互いの技を見る視点が明確になり、対話が増えることで子どもたちの技に対する意欲が益々高まったのではないでしょうか。

この点については、小堀先生を初め研究部でもずっと悩んでいた内容です。６年昌平先生のハードルの授業では、チームでタイムを縮める目的で対話を生み出していましたが、器械運動では何を手立てに対話を生み出せばよいのか？今後の課題です。